

R7.2.7 第2回松戸市医療的ケア児のための連携推進会議  
健康福祉社会館資料

## R6年度 松戸市こども発達センターの取り組み報告

### 1. 通園施設での医療的ケア児支援の状況

- ① 福祉型（7クラス71名）：
  - ・5歳児気管切開1名⇒気管内吸引、バス乗車時の看護師添乗
- ② 医療型（1クラス7名）：
  - ・5歳児経鼻経管栄養1名⇒単独通園時の口鼻腔吸引、経鼻経管栄養
  - ・4歳児胃ろう・CPAP1名⇒単独通園時給食（初期食）注入、CPAP装着

### 2. R6年度取り組み状況

- ・福祉型の児童は、バス送迎が開始され、週1回は登園している。
- ・医療型では、5月より3歳から5歳児まで1日3組までの単独通園が開始となり、他事業所を併用されながら、定期的に週2回位のご利用がある。その他、週1回は親子通園を設けている為、水療育や音楽療法、クリスマス会などの行事にも参加し、保護者同志の情報共有の場にもなっている。
- ・担任の保育士は、会館内2階に配置されている専門職（PT・OT・ST・ORT・心理士）に、発達状況に応じた療育のアドバイスを受けている。また、摂食外来の歯科医師からの指導を受け、口腔機能の維持に努めている。

### 3. 今後の課題

#### ① 「福祉型」「医療型」の一元化

中核拠点として専門人材を配置しており、地域の関係機関と連携した支援の取組を進めていく。（保育所等訪問支援や巡回指導、等）

#### ② 咳痰吸引研修の推進

R7年度予算要求をおこない、保育士の資格取得を進めていく。

#### ③ ICTシステムの導入

事業所評価において、保護者からの要望が聞かれており、バスのGPS機能は取り入れたが、単独通園のスケジューリング等、他のシステムの導入についても進めていきたい。

#### ④ 医療的ケア児指示書の見直し

保護者の記入書類が複雑かつ膨大な量があり、簡素化の必要を迫られている。特に、指示書については、見直したい。